佐藤清男さんの作品です。題は「孫を相手に」。佐藤さんはご退職の身で、今荒尾市大東区八班にお住まいです。作品を寄せていただいて、ありがとうございました。がんばつてください。

きょうだいで書いた作文

おかあさんと　おとうさん

小学三年生　前川　ともよ

こんど、このしんぶん〝みいけ〟の新春特別号のために、よい子のきょうだいが「おかあさんとおとうさん」について、作文をかいてくれました。よく書けました。かんしんですね。これからはみんなも、こんな作文をどんどんかいてみましょう。きっとうまく書けるようになるから。

わたしが一番すきな人は、おかあさんとおとうさんです。

おかあさんは、ときどきトランプなどであそんでくれます。おとうさんは、野球であそんでくれます。だからわたしは、おとうさんとおかあさんが一番すきです。

でもおとうさんは、ときどきこわいかおをしておこります。

おとうさんとおかあさんは、とてもきれいなえがおでわらうからすきです。

ときどきわたしがてつだうと、おかあさんが「ありがとう」といってくれるのでうれしいです。おかあさんも、わたしがてつだったので、うれしいと思っているかもしれません。わたしはおかあさんから、「ありがとう」といわれるとうれしいです。

おとうさんは、りょこうにつれていってくれます。おかあさんは

しょうがく一ねんせい　まえかわ　かずのり

お父さんは、日よう日にやきゅうをしてくれます。やきゅうをしていると、お父さんが「きつか、やめようか」といえいがをみせにつれていってくれるから、一番すきです。

「よるにあばれよう」、といいます。お父さんはテレビをみているから、ぜんぜんあばれません。

足君の反省

三川・駛馬北分会　馬場和子

人間の体は頭、胸、腹、手足、そのほかから成っている。こんな話しをご存じだろうか。

ある日のこと、足君が突然こんな不満を言い出した。

「俺ばかりが毎日毎日重い荷物を持ち歩いて、たまったもんではない。バカらしい」

一種の脱落表明であった。

聞いて、心配したのが頭君。良く考えて見た。これは何とか、足君を自分達仲間が守ってやらねば大変なことになる、と思い、足君に次の通り話しかけた。

「足君、お前の不満はよくわかるよ。でも俺達はみんな、幸わせで長寿できるように頑張る使命を帯びているはずだ。それで、みんなが頑張っているのではないか。良く考えてくれよ、君にはお風呂に入る時も、寝床にお休みする時も真っ先に入ってもらうではないか。俺を見ろよ、お風呂にも入れられず、もちろんこの寒い冬の日も、フトンの中にも入れてもらえず苦しいばかりだよ。それでも、頑張っているではないか」

聞いていた足君、さっそく「俺が悪かった」とみんなにあやまって、また元気に歩き続けたそうである。

人間は誰でも幸わせで、長生きしたい。みんながいっしょになって、頑張りたいものである。

スーパーに思う

港務・弥生分会　一主婦

私の職場から五分とかからない所に、大手スーパーができました。食料品を主体とした日用品、雑貨、衣料品等を売っており、営業時間は朝九時より翌朝一時まで、十六時間も続けて営業しています。共働きの私どもにはとても便利です。

毎週水曜日にチラシが入り、五日間は特売日で平日値段より二、三割安くなります。全商品が安くなるのではなく、ごく一部の品にすぎませんが、薄給の私どもの家庭では大助かりなのです。特売日には買わないとなんとなく損をしたような気持になり、特売日には随分得したような気持になって沢山買い込んでしまいます。料理しないまま捨てるときほど、主婦としてみじめなものはありません。

また、安い物でも腹一杯食べられるということは何と幸せなことでしょう。その日の嫌な出来事、家計の苦しいこと等いっぺんにふっ飛んでしまいます。

私どもの家庭にとっては本当にありがたいスーパーですが、そのまわりに昔からあった小さな商店はスーパーに客を取られてしまい閉店の憂き目にさらされている状態です。このような店を見るにつけ、聞くにつけ、野放しで喜んでばかりはいられないような気持になります。きっと、主人たちの大闘争を見ているせいでしょうか。

特集　新春

松の盆栽に寄せて

三川指導部　田上　勇

盆栽といえば昔は高価品であり、オエライさんの愛玩用や献上品として利用されたとか。今では、金さえあればかなりの品物でも手軽に入手できるようになった。盆栽熱は大分上向いている。

私たちのような金に縁の無い者は小さい物から育てているが、なかなかうまくいかない。時どきほったらかしたくなる。しばらくして、友だちのを見てはまた手にかけてみる。なんてみみっちいことのくり返し。

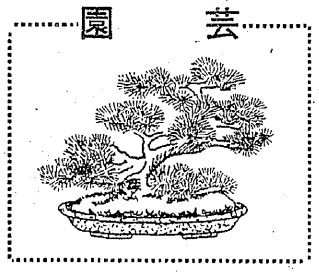
十数年も前の話。ある人が果園芸園に、松の盆栽を千五百円で買ってくれといったが、園としてはしぶって買わなかった。その後しばらくしてからお医者さんが買い取り、そしてまたしばらくして、それを園が一万円で買い取った。園はそれを五万円で売った。買い取ったその人に園がまた十万円で売ってくれ、と相談したものを、こんどはその人は売らなかった、という全くウソみたいな実の話がある。女は化物というが、盆栽もそれに劣らず化物だ。

×

最近、社宅住まいの人たちの間でも盆栽熱が高まった。近所の、とくに新労組の家庭の奥さんたちが熱心で、しきりに質問ぜめにあう。植木を通じての心のふれ合い、交流ができ、心がなごむ。この頃、盆栽のサークルに入って良かったな、とつくづく思っている。

×

盆栽や園芸についての疑問や希望がございましたら、どうか編集部までご連絡ください。（社内電話は、四七四か五七六番をどうぞ）



むつき　一月の暦

1日　元旦。

4日　官庁御用始め。特定休日（三池炭鉱）で、この日までお休み。

6日　小寒。消防出初式。

7日　七草。七草がゆ（せり、なずな、ごぎょう、はこべ、仏の座、すずな、すずしろ）を祝う。

9日　大牟田地評の旗開き。

11日、鏡開き。この日から翌十二日まで、福岡県評の春闘討論集会（原鶴）。

12日　荒尾地評の旗開き。

15日　成人の日。

21日　大寒。

×

▼…気象庁の長期予報では、一月は寒さが強まり、日本海側は大雪の恐れ。冬期全般の平均気温は「北暖西冷」型の予想。

一月は炭労として七九春闘への準備とともに、三池労組としては福利厚生関係の要求を集約するための、職場討議という大切なときに当たる。新労組の仲間、そのほか社外工の仲間とまず腹をうち割って話しこむことこそ先決。要は、三池炭鉱に働く全労働者の統一要求を掘り起こすこと。そこに闘いはある。

季節にまけずにがんばろう。

随筆　坑内弁当

三川・通松分会　高橋保子

坑内弁当を作って三十年。初め、ぶかしく、しげしげと見つめている私に家族の者が、〝立ち食い〟の話をしてくれました。

搾取の意味さえ解らぬままに時が流れ、何時の頃からか夫の弁当箱から粉炭が消え、お箸が白くなりました。今にして思えば、あの頃から夫は労働者としての権利を主張することができ、人間らしく食事の時間がもてたんだなと、何だか胸が痛くなります。

中年を過ぎた頃から、成人病のことを案ずる私の気持とはうらはらに、高温切羽で汗まみれになって働く夫は、目茶苦茶に塩辛い物を欲しがるようになりました。ですから、共働きと低賃金の中での弁当作りは大変でした。「弁当のおかずに頭が痛いね」と、ちょっぴり愚痴をこぼしながら、それでも夫の無事を祈る妻の思いをこめて、一生懸命に作ってきた弁当です。夫もやがて定年。合理化につぐ合理化と闘いながらも、不況のあおりをかぶるのはいつも労働者です。権力の足もとがゆらぐ時、弾圧はいよいよきびしくなるといいます。私は夫の若い仲間が、再びあのまっ黒いお箸を登場させることを許さないよう、そしてまた本当にものがいえる労働者として何時いつまでも命を守る闘いを続けていって欲しいと思います。

共に頑張りましょう。